



室蘭工業大学地域共同研究開発センター センター ニュース 平成19年度 2. 事業推進検討会

雑誌名	室蘭工業大学地域共同研究開発センター センター ニュース
巻	19
ページ	9-26
発行年	2008-05
URL	http://hdl.handle.net/10258/00009331

2. 事業推進検討会

開催日：平成19年12月4日(火)14時30分～16時30分

場所：室蘭工業大学 事務局中会議室

出席会員：尾谷 賢、工藤 恣、小泉 信男、下地 賢芳、岩本 隆志、中田 孔幸、宮本 英一、赤繁 博規、
矢島 清孝、宮地 隆夫、菊池慎太郎

オブザーバー：石坂 淳二、鈴木雍宏

大学関係職員：松岡 健一、岸 徳光、朝日 秀定、黒島 利一、木村 政和、川岸 斉、衣藤 充明

次 第

○開 会 告 示

○挨拶：室蘭工業大学長 松岡 健一

○会 長 選 出：矢島 清孝（兼議長）

○副 会 長 選 出：宮地 隆夫

○挨拶：会 長

○自 己 紹 介：出席者全員

○大学関係者紹介：オブザーバー、大学関係職員

○討 論：平成18年度活動報告、平成19年度活動計画、質疑応答

○挨拶：会 長、理事(岸)

会議録

○司会(木村)

予定の時間になりましたので始めさせていただきます。

本日はお忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。ただ今から室蘭工業大学地域共同研究開発センター事業推進検討会を開催いたします。開催にあたりまして室蘭工業大学長松岡健一よりご挨拶がございます。学長、よろしくお願いいたします。

○松岡学長

本日は師走に入りまして何かとご多用なところ、本学の地域共同研究開発センター事業推進検討会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。心からお礼を申し上げたいと思います。

この後、CRD 関係や連携関係のことについては担当の岸理事より説明を申し上げます。私からは、大学の全体的なことについてお話しさせていただきまして、開会の挨拶とさせていただきたいと思います。いろいろところで同じことを言っていますので、何度も聞いている方もいらっしゃるかもしれません。

大学が法人化されてから4年も終わろうとして、かなりの期間を経過しております。法人化というのは、大学の自主自律制を確保する代わりに、大学は目標期間の中で目標や計画を立て、年度計画に沿った事業の成果を事後評価するのが基本になっております。評価が強調されています。本学の場合、特に法人の評価以外に工学系の大学ですので技術者教育認定機構、いわゆる JABEE の評価や大学全体として認証評価も受けなければなりません。法人の年度評価、目標期間に応じた評価ということで、評価、評価に追われています。特に来年度は、目標期間は6年でございますけれども、6年を待たずして4年の結果で暫定評価をするということで、法人として最大の総合的な評価と、もちろん年度評価もありますし、本学は JABEE も全学で対応するということです。まだ申請できていないところが4つありますが、それも来年度全部が対応できるように、全学をあげて評価に対応する体制で臨んでいます。

活動で申しますと、教育面では JABEE の認定を受けることが最重要課題で、現在は約半数の分野で認定を受けておりますので、残りの半数を来年度受けることとしています。昨年も申し上げたかもしれませんが、特色 GP

ではオムニバス形式による技術者倫理教育が昨年採択されましたので、本年度は2年目ということで精力的に事業に取り組んでいただいております。

来年度には、博士全課程に三つの新専攻を置きます。航空宇宙システム、公共システム、数理システムという三つの工学系の専攻を置くということで認められて、現在それに向けた学生募集等も進めているところでございます。

研究面では、法人化の早い時期に三つの研究領域、環境科学、新産業、感性工学ということで、三つの重点領域を設けて取り組むすなわち環境化学防災研究センター、航空宇宙機システム研究センター、それからサテライトベンチャービジネスラボラトリーという三つの分野でそれぞれの研究を重点的に取り組んでおります。特に航空分野では、白老に新しい実験場を用意できたことで、最終的な準備が済んで実質的な研究に取りかかっていただけと考えております。

また地域連携は多分あとでいろいろ報告いただけたと思いますけれども、本学は最近連携を進めているということで話題になっているかと思いますが、地域の大学等も含めた連携を、法人化後、今21で、近々もう一つふえますので22、それから国際交流として海外の機関との連携の予定も含めて24かと思いますが、地域、国内、海外との連携を強力に進めています。ただ連携をしたというだけで、実際に効果をあげなければ意味がないわけです。本学は単科大学で総合的な地域貢献や研究面でも総合的な発展のためには他の機関との共同が必要だということで、環境整備という意味で連携を進めています。来年度に向けては、この連携を実のあるものにするようにそれぞれ事業を充実させていくことが必要だと考えております。

概略的なことを申し上げましたが、来年度には法人の暫定評価がございますので、それに向けて精力的に取り組むということであります。特にこの事業検討会は、本学と地域企業との共同事業を推進していく、地域に根差した大学、地域に必要とされる大学ということで言えば、一番重要な位置づけにある事業、組織と言えますので、その意味でも今日の検討会でも皆様方の有意義なご意見をいただき、大学の事業に反映させていただければと思っておりますので、忌憚のない意見をお寄せいただきますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

○司会

ありがとうございました。松岡学長はこの後所用がございますので、これで退席させていただきます。

○松岡学長

それではどうぞよろしくお願いいたします。

○司会

お手元の資料の確認をお願いします。最初に「平成19年度室蘭工業大学地域共同研究開発センター事業推進検討会」と書かれた資料、続きまして「CRD センター事業推進検討会説明資料」、「国立大学法人室蘭工業大学地域共同研究開発センター・平成19年度事業推進検討会」という資料でございます。次に「平成19年度室蘭工業大学概要」、続いて「国立大学法人室蘭工業大学地域共同研究開発センターの概要」です。続いて「平成18年度センターニュース」です。次に「国立大学法人室蘭工業大学地域共同研究開発センター研究報告 No.18」です。最後に参考資料でございます。「全国大学調査・地域貢献度ランキング」で日経グローバルの資料でございます。以上ですが、不足がございましたら、事務局へお申しつけ下さい。

それでは、室蘭工業大学地域共同研究開発センター事業推進検討会の議事に入らせていただきます。本会の会長が選出されるまでの間、室蘭工業大学研究社会連携担当理事の岸理事に議長をお願いして議事の進行をしたいと思います。よろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

それでは岸理事に議事の進行をお願いいたします。

○岸

本年4月から国立大学法人室蘭工業大学の研究社会連携担当理事を仰せつかっております岸でございます。よろしく願いいたします。

国立大学法人室蘭工業大学社会連携担当理事としまして、室蘭工業大学地域共同研究開発センター、通称 CRD センターを法人の立場で統括する職にあります。よろしく願いいたします。

議事に入ります。会長選出前に本会の趣旨等についてご説明の後に、会長の選出を行いたいと思います。本学の CRD センターは昭和 63 年、当時の文部省により奨励施設として設置が認められ、建物の予算及び人員配置などがなされております。当時の日本は産業構造の大きな変化によりまして、いわゆる重厚長大産業から軽薄短小産業にシフトし苦しい状況にありました。私どものセンターは、北海道では一番早く設置されております。理由は、この地域が北海道では重厚長大産業の中心であったことによりまして、すなわち当時室蘭地域は、産業構造の変化の影響を道内では一番大きく受け、労働者が去っていくという悪循環の状況が生まれていました。このような状況から地域経済の活性化に寄与するために、当時の文部省所管事業として当センターが設置されたものと考えております。それ以降 CRD センターは積極的に種々の事業を展開してまいりました。

この事業推進検討会も本学独特の検討会と自負しております。メンバーは北海道各地域でものづくりや地域産業の連携、研究機関で研究に係わる方々、あるいは報道機関を含め広い分野の方々にお願いし、毎年開催しております。

お手許の資料の規約に載っておりますとおり、当検討会は CRD センターにおける前年度の事業報告及び当該年度の事業計画を説明し、皆様からご意見をいただくことになっております。いただいたご意見、ご助言、ご提言は直接当センターの事業や管理運営に反映させていただくこととしております。これまでも多くのご指導により、たくさんの成果をあげております。

当センターの活動が評価された一つとして、日経新聞が今年6月に実施した「全国大学調査地域貢献度ランキング」で総合第1位となりました。この調査の5割程度が当 CRD センターの活動によるものであります。例年ですと当該年度の計画をご審議いただくこともあり、年度の早い時期に開催しておりましたが、諸般の事情によりこの時期の開催になりましたことを深くお詫び申し上げます。後ほどセンター准教授朝日から、平成 18 年度センターの活動報告、及び今年度の報告、事業経過についてご説明申し上げます。

国立大学法人になり4年、4回目の事業推進検討会です。これまでいただいたご意見に従いまして、活動を展開してまいっておりますので、本日も忌憚のないご意見をお願いいたします。CRD センターの説明と経緯を受けまして、この会のご紹介をさせていただきました。

では会長の選出を行いたいと思います。資料2ページ規約第5条の規定に基づき、会員の互選により選出したと思います。会員につきましては資料3ページに名簿がありますが、本日都合により次の方々が欠席されております。お一人は CRD センター研究協力会会長石橋靖様。苫小牧工業高等専門学校長伊藤精彦様が欠席です。また本日都合によりまして株式会社日本製鋼所室蘭研究所田中所長様の代理としまして副所長岩本隆志様、北海道経済産業局森本地域経済部長様の代理として、新規事業課長赤繁博規様が出席となっております。以上の方々を除きまして、自薦、他薦で会長をご選出願います。どなたかおりませんか。

なければ私のほうから推薦させていただいてよろしいでしょうか。それでは財団法人室蘭テクノセンター専務理事矢島清孝様にお願いしたいと存じますが、ご承認いただけますでしょうか。

(異議なしの声あり)

ありがとうございます。それでは規約では会長が議長となっておりますので、議事の進行を矢島会長にお願いいたします。

なお議事に先立ち会長から一言ご挨拶をお願いいたします。矢島会長様、議長席へお願いいたします。

○矢島議長

室蘭テクノセンターの矢島でございます。僭越でございますが、ご指名でございますので、本検討会の会長を務めさせていただきたいと存じます。

先ほど岸理事からご説明がございましたように、本検討会の役割につきましては室蘭工大の先生方と私ども民間企業等が意見交換を行うことにより、地域共同研究開発センターの事業推進に資するとされているところでございます。また略してCRDセンターにつきましては、昭和63年4月に開設され民間企業との共同研究、研究交流、あるいは地域社会との連携協力といった各種事業に積極的に取り組まれており今日に至っております。

特に最近では地域企業との交流、共同研究、さらに金融機関を含めた連携協力や研究シーズ集の発行、さらに学長先生のご挨拶にもございましたように、いろいろな機関との協定を締結されておりますけれども、そういった取り組みが進められるほどに地域社会、あるいは産業界の大学及びCRDセンターへの期待も大きくなっていると感じられるところでございます。

本日は限られた時間でございますが、忌憚のない活発な意見交換をお願い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

議事を進めてまいります。規約第5条の規定に基づき会員の互選により副会長の選出をお願いしたいと存じます。ご意見がないようでしたら、私から推薦させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。
(異議なしの声あり)

それでは副会長に室蘭工業大学の宮地理事様をお願いしたいと思います。ご承認いただけますでしょうか。
(異議なしの声あり)

それではよろしくお願いいたします。

次に進みます。ここで会員の皆様に自己紹介をお願いしたいと思います。始めに私、先ほどご挨拶しました室蘭テクノセンターの矢島でございます。よろしくお願いいたします。私の右から順次自己紹介をお願いします。

○尾谷

北海道立工業試験場の尾谷でございます。よろしくお願いいたします。

○工藤

室蘭民報社の工藤と申します。よろしくお願いいたします。

○小泉

社団法人寒地港湾技術研究センターの小泉と申します。よろしくお願いいたします。

○下地

株式会社ドーコンの下地でございます。引き続きよろしくお願いいたします。

○岩本

日本製鋼所室蘭研究所の岩本でございます。きょうは所長の田中の代理でまいりました。よろしくお願いいたします。

○田中

室蘭市建設業協会の田中でございます。よろしくお願いいたします。

○菊池

室蘭工業大学の菊池でございます。どうぞお見知りおきください。

大変申し訳ございませんけれども、他の会議と重複しておりまして、もうしばらくたちましたら中座させていただきますのでご了承をお願いいたします。

○宮地

同じく室蘭工業大学理事の宮地と申します。今回は副会長ということでよろしくお願いいたします。

○赤繁

北海道経済産業局の赤繁と申します。本日は、当局の森本部長が所用で来られないということで代理出席させていただきます。

昨年、私が出ておりますが、産学官連携推進室という名前でしたけれども、4 月からその室と新規事業課の両方を兼ねております。よろしくお願いいたします。

○宮本

北海道電力総合研究所の宮本と申します。前任の高橋は移動となり、後任でまいりました。よろしくお願いいたします。

○矢島議長

ありがとうございました。

続きまして司会者から、ご列席の方々のご紹介をお願いいたします。

○司会

それでは大学関係者を紹介させていただきます。

先ほどもご挨拶しました研究社会連携担当理事岸 徳光でございます。

○岸

岸です。よろしくお願いします。

○司会

続きまして知的財産本部教授鈴木雍宏でございます。

○鈴木

鈴木でございます。よろしくお願いいたします。

○司会

CRD センター准教授朝日秀定でございます。

○朝日

朝日です。よろしくお願いいたします。

○司会

産学官連携コーディネーター石坂淳二でございます。

○石坂

石坂です。よろしくお願いいたします。

○司会

以上のほか事務局関係者が列席しております。

なお CRD センター長加賀壽につきましては、やむを得ない事情により欠席しておりますのでご了承願います。

最後に、司会を担当している私は、地域連携推進課長の木村と申します。よろしくお願いいたします。以上でございます。

○矢島議長

ありがとうございます。

早速本日の議事に入りたいと思います。

討論テーマ1・平成18年度CRDセンター事業についてでございます。18年度の事業につきまして朝日先生からご説明をお願いいたします。

○朝日

お手元の資料とパワーポイントで紹介させていただきますが、若干訂正がございますけれども、ご勘弁いただきたいと思います。本日は、本来であればセンター長の加賀がご説明申し上げるところですけれども、ご存じの向きも多いと思いますが体調を崩し出てこれませんので、私から説明をさせていただきます。

センターの18年度事業報告から始めさせていただきます。18年度は私共にとりましては、私も加賀もそうですが、初めてセンターに所属しまして、西も東も、上も下もわからない状態でスタートいたしました。前任者の方が敷いて下さったレールの上で一所懸命に走ったという状況でございます。皆様のお手元にあるセンターニュースでは、時系列でご紹介申し上げます。事業活動は24ページからスタートしております。事項別に分けて説明申し上げます。

センター内の事業としては、研究協力会の役員会、総会は、本センターをサポートしていただける会員企業等の皆様においでいただき、センターに対するご意見をいただく、あるいは会員の皆様の要求などを頂戴する催しで、7月26日ホテルサンルートで開催致しました。もう一つは、本日の事業推進検討会は、昨年11月27日に開催させていただいております。

講演会と講習会は、昨年11月29日に中島の蓬峯殿で第19回大学企業技術交流会、あるいはテクノセンターさんではフロンティア技術検討会と称しているものですが、これを合同で開催いたしております。内容は、政策大学院大学の橋本教授から、全体の企業のあり方についてお話をいただいたのですが、そのあと自動車関連の企業を室蘭地区でどうするか、どうあるべきかという議論をパネル討論で宮地 隆、横山 明、上野 隆それに清水一道の皆さんにお話をいただいた会でした。

12月14日は、ここに居られます鈴木教授ですが、当時の客員教授からJSTのシーズ発掘試験報告、申請の書き方を指導いただいた会議でございます。

MOTの実践講座をいたしております。MOT実践講座は、各会社の皆様にご経験を話していただいた会でございます。学生や企業の皆様においでいただきお話しをしていただきました。この養成講座は、昨年度で3回開催しております。

続きまして本学のシーズの紹介、地域連携CRDセンターセミナーと称したものを開催いたしております。地域連携でございますので、いろいろな地域に出かけていかなければいけないのですが、去年は函館と伊達に出向きました。シーズ紹介で、本学の先生方の研究内容を紹介させていただきました。シーズ紹介を学内で、主に産学交流プラザ「創造」の主催でやらせていただきました。同じようにシーズ紹介ということで、本学の環境科学・防災研究センター、室蘭地域環境産業推進コアの共催でさせていただきました。13社約20人の方においでいただき、ご要望を聞かせていただき、本学のシーズ紹介もさせていただきました。函館市では本学の先生4名のシーズ紹介を頂き、同じ会で函館高専の3人の先生のシーズもお話し頂きました。その後の交流会の場面でも、本学の5人の先生も加わり交流会をおこないました。

本年の2月28日に伊達ロイヤルホテルで、本学の先生方のシーズの紹介と分科会に分かれ、各先生が持っているスキルで一番得意なところを中心に討論いただきました。

技術交流会として、研究シーズ、ニーズの紹介、あるいは大学企業技術交流ということで、7月25日に日本製鋼所さんと交流会を持っております。同様に10月26日本学の共同利用施設を使って、日本製鋼所さんと研究交

交流会をおこないました。あるいは技術交流会、意見交換会として3月27日、年度末になっていますが、北海道電力さんの総合研究所の江別さんにお邪魔して、意見を頂戴したり、こちらのシーズを紹介したりしています。

そのほか私どもの大学から教員等を派遣いたしまして授業をいたしております。コラボ産学官創立2周年記念式典には、東京にあります朝日信用金庫の主催で毎年1回、コラボ産学官に参加している大学の学長先生たちにお集まりになり、昨年度は「我が大学の強み」ということで各大学の紹介をされ、本学の松岡学長が最初の講演をされました。

11月10日には、大学発ベンチャー北海道フォーラムのパネル討論に参加いたしました。産学官交流プラザの相談例会というものにも先生を派遣する。あるいは日本材料学会北海道支部にも、本センターの客員教授の町田先生をにお話しをいただいております。

2月26日ですけれども、産学官連携推進フォーラムは、ホテルポラスター札幌で開催されまして、本学からは客員教授である末富室長と本センター長の加賀が参加しました。私は三つとも聞けなくて残念でしたが、現場のしっかりした話を聞かせていただいて勉強不足を感じました。

展示会は、昨年は4回出ております。イノベーション・ジャパンは文科省と経産省、日本経済新聞BP社主催で毎年開催されております。9月13日～15日に東京の国際フォーラムで行っております。ここへ、本学からは感性工学関係の医療分野としてパネル展示をしております。

8月4日に、環境広場さっぽろ2006に出しております。切り口が環境ですので、環境にかかわる話をパネル展示いたしました。この中では、意外と我々の中で常識になっていることが、一般市民の方ではご存じないということで、飛び抜けた話ではありませんけれども、熱電変換材料などの実演をしました。ここではサーキットで車を走らせたので、お子さんに喜ばれました。

ビジネス EXPO と呼んでいますが、第20回北海道技術ビジネス交流会が11月9日、10日でアクセス札幌で開催され、同時開催の産学連携イノベーションイン北海道2006にも出展いたしております。

CRD セミナーと称する講演会をやっております。これは客員教授の先生方の講演会でございまして、共同研究で何をしているかということの研究協力会の会員の皆様にご案内してお話しをさせていただくという会でございます。都合8回行っております。

知財セミナーを開催いたしました。これは知財をどのように我々が検索して利用していくかという話を九州大学の熊谷先生に3度お越し頂きましてお話しをいただきました。主催は私どもではございませんけれども、講演会の開催準備を致しております。本学の教職員の皆さんに参加いただいて、知財についての勉強の場をつくっております。

それから18年度からの定期的な会合として、連携推進支援会議を隔月で行っております。こちらにもいらっしやいますけれども、本学の地域共同開発センターに対するサポーターの会議で、各支援機関や個人的な思いで当センターをサポートしていただいている、ありがたい会議でございます。実は、日本で地域連携に関する施設として、このような会議を持っているのは本学だけのようでございます。ほかの大学では、持っておられないということで、本センターは特色あることをやっているという気がしております。話し合いや相談には、多くの役割を担っていただいて重要なアドバイスを頂戴しております。

五者懇談会と称するものも毎月してございます。場所は室蘭テクノセンターさんで、市役所や胆振支庁、あるいは金融関係の方、我々ということで、今は5者以上でしょうか、たくさんおられるので何社なのか直ぐには正確に申し上げられませんが、スタートは5者会談でした。意見交換などをして補助事業やどういう問題で困っているかの意見交換をしています。

HiNTの連絡会は、大通り西5丁目にある札幌のビジネスパークで開催しており、我々が参加しております打合せ連絡会でございます。HiNT会議は月2回開いております。要するに会員機関による情報、意見交換の場でございます。

昨年事業としては、刊行物の出版でございます。ご存じの向きも多いと思いますが、シーズ集の発刊をいたしておりますけれども、これはWEB上からもご覧いただけます。手前みそでございますけれども、各方面から、よろしいという評価をいただいて、我々も半分ぐらい鼻を高くしておりますけれども、それに陥らないように中

身をもっとうまく表現したいという気持ちでおります。研究報告はお手元にあります白い表紙のNo. 18号です。黄色のセンターニュースはNo. 20号を発行しております。ニュースレターと称している速報は84～88号まで昨年は発行いたしております。ニュースレターは行事の案内、あるいはトピックス的なものを発信しています。

昨年、コラボ産学官の東京事務所では何をしたかという、10月1日に青山のオフィスを開設しました。ここには先ほどお話ししました客員教授の町田先生が金曜日に一日在勤するという体制になっております。場所は青山学院大学の向かいで、国際大学の隣でございます。産学連携支援センター埼玉のパネルの常設展示をするようになりました。埼玉の支援センターからお誘いいただいたものです。このほかにコラボ産学官の東京オフィスの事務所は、江戸川区の船堀にございましたが3月いっぱい撤退いたしました。理由は、場所的に不便で施設の出入りが難しかったからです。元信用金庫で外部からのアクセスができない。1年に何回も行かないので、入り方を忘れてしまってウロウロしてしまうような状況でしたし、町田先生からも、ここは場所的に不便で利用には堪えないのではないか、それと借料に見合うだけの効果がないということで撤退しました。それからHiNT、R&Bパーク札幌大通りサテライトですが、ここを起点として企業訪問、共同研究の技術相談の打ち合わせ、産学官の連携会議、あるいは同窓生の利用、技術講習会ということで昨年は15回使っております。北海道鋳物産業における中核人材育成プロジェクトに6回利用しております。

先ほど少しお話ししました埼玉の支援センターですが、東北本線の駅沿い、埼玉副都心へ行くと距離的に1キロメートルぐらいですが、北与野駅前の建物で、3階に展示場があります。25大学ぐらいが展示されております。今後も支援していただけるということでお世話になるかと思っております。

18年度センターニュースの19ページあたりから、共同研究や受託試験のことが載っております。22ページのプレ共同研究は4件です。これは学内の先生に対して研究協力会の基金を元に、外部の会社との共同研究の事前試験を行う制度です。18年度は4件ございまして、一番上の項目を実際に進めようとしておりましたが、うまくいかず別な共同研究を進める状況になっております。そのほかはまだ共同研究に至っておりません。

これは私どもが直接お世話したもののばかりではございませんけれども、共同研究全体で18年度は件数でいきますと116件ございます。前の年は120件近くありましたので件数は若干落ちていますが、金額からいきますと23,000万円強で、額面は増えています。これを元に考えますと今年度はもっと伸びるだろうと期待しております。昨年その場でいただいたご意見の中で、共同研究等をした場合に顧客にあたる企業がどれだけ満足しているかを調査してほしいというお話をいただいております。その事について、19年度の計画の中でお話しさせていただきたいと思います。昨年のCRDセンターへの直接の技術相談は8件でございました。あまり多くはなかったなと思っております。

そのような活動が一部認められたのか、また各教員の方々の努力ということで、本学は昨年10月31日に中小企業共同研究比率では、日本の大学のなかでも最も高いという評価を総合科学技術会議でいただいております。中身は管内の企業との取り組みが全体の25%、道内が35%、道外は40%であります。それとこの話が直接結べたかは別ですが、こういう評価をいただいたということで、センターとして少しはお役に立てたのかなということでございます。

サテライト東京オフィスで、本学シーズの広報活動ということで、コラボ産学官フォーラムで学長先生が「本学の強み」と言う題目でお話しをされました。イノベーション・ジャパン2006、産学連携支援センター埼玉の常設パネルの展示、青山オフィスの開設、これによる都内での本学の広報活動があります。東京オフィスについては後ほど別途に説明致します。

サテライト札幌オフィスですが、ここでの産学官連携広報活動、あるいは相談支援からの新連携の展開、産学官連携イノベーションフェア in 北海道展示会と3回出展しております。道央圏の企業訪問といったこともいたしております。

それから産学官連携推進会協定の参加、客員教授14人による共同研究や支援技術セミナーが8回、及び本学の社会貢献活動支援、大学企業技術交流会等を当センターと室蘭テクノセンターさんとの連携で実施しました。地域間交流としまして函館高専さんと連携して、函館で話をする。あるいは伊達市で交流会、意見交換会を行い、シーズの発表させていただく場を設けました。企業との技術交流会の実施は、日本製鋼所さんや北海道電力さん

と行いました。知財本部と連携による研究シーズ集 49 名分の発刊。それを利用して、我々はいろいろなところで先生方を紹介するなど、ツールとして活用致しております。

そのほかセンターニュース、研究報告、ニュースレターを発行しております。以上、18 年度の報告をさせていただきます。

○矢島議長

ただ今、朝日先生から 18 年度の事業内容についてご説明いただきました。内容等についてのご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。

○質問

先ほどの広報活動で、東京サテライトですが、広報活動の反応といいますか、難しいですけれども、例えば広報活動の中で何かを見たらという、何とか応対できるような検討値があるのかどうかわかりませんが、そういう工夫はしているのですか。

○朝日

具体的に何を見てというのは、必ず特に在京の方、同窓生の方もご相談をいただくと伺っております。東京の広報活動はイノベーション・ジャパンとか東京方面での出展が主で、直接オフィスにおいでいただくのは、私どもの努力不足もありますけれども、なかなか至っておりません。出展で大学が知られて、ご相談に見える方は、去年は 3 名ありました。実質共同研究には結びついておりません。

○矢島議長

ほかにもどなたかございますか。

○質問

昨年もシーズ集をつくりましたので、今年は 5 月でしょうが、具体的に活用されてシーズが生きてくると思うのです。シーズ集を出発点として、例えば今年度の共同研究に移行したなどの事例は出てきているのですか。

○朝日

今年度はそれをスタートにしたもので、私が知る範囲では先生がこういうことができそうだということで 2 件の相談を受けております。具体的に共同研究になったかという、1 件だけだったと思います。

○質問

後は、これにもありましたがシーズの紹介で、大学のファシリティを地域の企業さんに向かったということを進めていますよね。その利用状況などはいかがですか。

○朝日

オープンファシリティのほうは、学長先生も私もみんなやりたいと思っているのですが、現実には至っていないと思います。ただご存じのとおり、ここにはものづくり基盤センターがございますので、そこを学校の方、小中高の方、あるいは町の方が何かやりたいなと来て、話に乗ってくれるという使い方はされています。オープンファシリティについていえば、本来はもっと高度な機械の利用があつてしかるべきと思いますが、そこには一歩、二歩、我々の努力を重ねないと動かないという状況であります。

○矢島議長

ほかにもございませんか。

先に19年度の事業についてのご説明をお願いできますか。

○朝日

それでは19年度のセンターの事業計画と今までの状況をご説明申し上げます。

年度当初は、サテライト東京オフィスを活用した、本学研究シーズの広報と研究会の開催、イノベーション・ジャパンへの出展、産学相談会への参加を計画しておりました。サテライトオフィス札幌を活用した産学連携広報活動、あるいはHiNT相談会の参加、あるいは産学連携イノベーションフェアイン北海道の展示会等への参加、道央圏の企業訪問も検討しておりました。また産学官連携推進会議京都への参加も継続いたしました。実は、お恥ずかしい話でございますけれども、昨年私のミスで京都での出展は失敗いたしましたので、できませんでしたからことしは失敗のないようにということで、どうやら京都に出展することができました。道央圏の企業訪問、交流会の実施をやりたい。あるいは客員教授による共同研究やCRDセミナー、本学の社会貢献活動の支援もやりたいと思っております。やりたいことが沢山ありますけれども、学内センター及び室蘭テクノセンターと連携したセミナーや交流会の開催を考えております。地域間交流として、道内高専との連携事業を進めたいと、函館、苫小牧、旭川、釧路の高専さんとも連携した活動の話を持っていたところであります。それから地域企業との研究交流の促進。あるいは研究シーズ集のシーズの追加。あるいはセンターニュースなどの計画を立ててスタートしました。

センター前の行事としては4月18日に研究協力会をホテルサンルートさんで開かせていただきました。推進事業検討会は、本日ここで開催させていただいております。

資料で、黄色の文字で書いてあるところはこれから行う事業でございます。

白いところは、既にやり終わった事業であります。講演会を室蘭地域の産学官、地域の環境産業推進コアさんの行事ということで、本学の共同利用施設で10月31日に開催されております。本学から3人の教員が出て、分科会方式で討論会を行っております。それからこれはフロンティア技術検討会とテクノセンターさんがおっしゃっているものと同じものですが企業技術交流会を11月29日に共催で行っています。これには、寺嶋実郎さんと経産省の前田課長さんにお越しいただいて、非常に熱いお話をいただきました。本日も午前中、各銀行や企業を回ってきましたけれども、参加されたみなさんがお二人の話しを大変喜んでおられたのでホッといたしております。

それから地域振興産学官金連携講演会ですけれども、10日に開催いたします。埼玉大学の綿貫先生、専修大学加藤先生、花巻市技術振興協会の事務局長である佐藤さんにおいでいただき、実際の支援について話を聞かせていただく計画です。

環境フォーラムを2月27日に予定しております。環境エネルギーというタイトルでパネル討論をします。メインの話は、大西敬三さんをお願いすることにしております。

MOT 実践講座でございますけれども、今年は4回行いました。第1回目は、宮地理事にお願いしています。2回目は小砂憲一氏(㈱アミノアップ化学)にお願いいたしております。アミノアップさんとは一昨年から共同研究を行いまして、その結果が「第1回ものづくり大賞日本」に輝いています。3回目には、本学の同総会の会長でもある井上一郎さんにお話をいただきました。4回目は、日本製鋼所顧問の塚田尚史さんにお話をいただいたところであります。

シーズ紹介で、地域連携のCRDセミナーをやっております。地域との関係で地域連携交流意見交換会、工場見学も含めて日本製鋼所さんと7月7日に交流会を行っております。あるいは医工連携の研究シーズの意見交換会を札幌医大さんと進めております。8月8日、9月19日、9月28日の3回行っております。医工連携のための交流をしています。

小樽商科大学さんとの連携についての話し合いが6月7日と9月にしておりますけれども、どのように連携を進めるかを小樽商大さんのCBCセンター長の海老名さんと井上一郎さんを交えお話しさせていただいております。

室蘭地域環境産業推進コアさんの事業に本学から3人の先生方を講師に、分科会方式でやっております。10月31日に開催しております。地域連携交流会、意見交換会ということでは、北海道電力総合研究室さんと11月11

日に開催しております。

出展ですけれども、昨年から見ると突然倍以上にふえました。まず6月12日に北洋銀行さんの「ものづくりフェア2007」。数日後に第6回産学官連携推進会議が国立京都国際会館でございました。7月20日、21日に札幌駅コンコースでポスター展示だけで直接は出向いておりませんが、宣伝しました。それからイノベーション・ジャパン2007が東京国際フォーラムでございました。1年かけてずっと追ってきたシーズでありますけれども、このときは非常に反応がよく、各会社と共同研究に向かって話が進んでいるようであります。

異業種交流産学官連携フォーラム北海道イン帯広は、中小企業基盤センターの整備機構さんあたりが中心になっておられる催し物ですが、今年は帯広で各大学の展示もやりたいということで、本学からも展示いたしました。その中で、事務局がシーズ集も作りたいということで、シーズ集にもエントリーいたしました。それからビジネスEXP02007にも、当センターから出させていただきます。北海道ビジネスフォーラム2007は、今年は初めての試みとして、大学のコーナーができたので出させていただきます。

ほかに、「彩の国ビジネスアリーナ 2008」の出展を予定しております。これは埼玉県企業の企業支援センターが中心になっている催しでございまして、これには何とか出したいと思っております。もう一つ北海道新工法・新技術展示商談会といってトヨタさんと関連企業向けに道が主催で行う行事です。本学からはアルミニウムの腐食防食処理と薄肉鋳鉄についてのシーズを展示して、話に乗ればいいとエントリーしています。

教員派遣の事業といたしまして、今年からHiNTの会員で月1回は打ち合わせの後にセミナーをやろうということで、本学から第1回目のHiNTセミナーには佐賀教授の話をさせていただきました。7月には岩佐教授、9月には境さんも出席の予定だったのですが、台風で飛ばされまして、11月まで飛びました。この12日に、JST北海道さんでのHoPEの例会で、刀川、風間、河合の三先生の話をしていただきます。翌日には、本学の松山先生にHiNTで話をさせていただくことになっています。

それから第3回の中小企業産業整備機構の産学官連携支援フォーラムが10月31日からありまして、東京ビッグサイトへ行ってまいりました。ここでは「地域ブランドとしてボルト人形」ということで室蘭発のボルトの宣伝をさせていただきました。ボルトは、産学支援や企業支援をされた方にとっては、なかったパターンだということで感心されたのですが、よくよく企業支援をされている方からは、製品にストーリー性があるかとか、マーケティングがどうだとか、戦略があるかとか言われるのですけれども、調べてみると全部そろっていることがわかりました、すごいものが室蘭やうちの大学に係わって発信されたなど感心しております。

高度技術研修をうちの大学では規則上開催することになっておりまして、これを開催いたしております。本年度の中身は、腐食防食アルミニウム及び銅管の腐食に対する防食技術の講習会でございます。大阪会場は10月26日で、80人定員のところ申し込み85で、実質参加が83で満員という状況でございます。東京会場は先日の28日にございまして、竹中工務店さんの研修所を使いましたが、55名の方がいらっしゃいました。来年2月1日に札幌で開催することにしております。今のところ参加申し込みは順調のようであります。

このほかに定期的な会合として、昨年までと違ってきたのは室蘭テクノセンターさんとのコーディネーター同士の会議を毎月で持っています。いろいろな問題、全体的なものではなくて、コーディネーターとしての問題をお互いに話して情報交換をして解決して、企業支援のサービスをしようということでもあります。それから、連携推進支援会議は本センターに対する支援、情報をいただく場であります。先ほど申し上げましたが五者懇という室蘭市内の機関、あるいは公的機関との隔月の会合。それからHiNT連絡会は月2回ありまして、その1回はセミナーが入ります。「地域ものづくり研究会」ということで、北洋銀行さん等との共同研究の会を持っております。この話はこのあとに顔を出しますけれども、その成果が地域ものづくり産業の集積と成果に関する研究ということで出ております。大変好評を得ているようです。この報告書は評判が良いものですから、人様の評判の良さから、私も自分の話のようにして自慢して歩いています。読んでよくまとめられているなという気がします。

今年はシーズ集の追加発行が19シーズございました。研究報告18号が出ました。センターニュースは20号。ニュースレターは、94まで出そうな気がしております。以上が今年度の刊行物であります。

それから昨年いただいた課題です。共同研究、受託研究の結果を皆さんはどう評価をされたのかというまとめでございます。これについては回答をいただいた皆様に細かいことは公表しないという約束をしておりますので、

まとめた形でしかお示しできません。実際にこの中で、製品コストの改善や納期の改善、品質改善ができたかなどを聞いております。平均をすると5段階表示で3.8点が平均となっています。悪かったものというのは、商品化ができたか、新しい製品ができたかどうかですが、設問がまずかったかなと思っております。製品に限るばかりではありませんので、例えば土木系の方の場合だと技術的な改善ということでございます。特許化につきましても、必ずしも共同研究をすると、全部特許という話ではございません。これらの点をイエスノーで答えると2.5は高いほうだと私は思っております。それから目的は達成したかというのは、その辺は平均より高いのですけれども、もう一つCRDセンターに親しみを感じるかどうかという問ですが、あまり点数がよくありませんでした。

実は、CRDセンターを経由して共同研究をしているケースは全体からみると少ないのです。ですからCRDセンターなんて知らないわけです。その上で親しみを感じるかと言われても、皆さんそうだとおっしゃるはずはないので、これも設問の仕方を失敗したかなと思っております。それから特許への満足。これも先ほどお話ししたように全部特許に至るわけでありませんので、この辺は仕方がないと思っております。ただちょっと平均から下がっているのは、ほかの会社にうちの大学を薦める気があるかどうかというのが3.5で、もう少し高い点数がほしいかなというのが、偽らざる感想です。平均としてはおおむね良好な結果が得られているのではないかと思います。

アンケートをいただいた方に、どういう経緯で大学とコンタクトを持ったかを伺いました。一番多いのは、教員との直接の係わり、次に本センターとテクノセンターさんが係わるのが13.4%、また、7.5%の方が展示会でご覧になっての関係です。それからほかの企業から紹介されたのが6%でございます。ですから直接先生のところへ行かれるケースが多いようです。大学のホームページをご覧になったり、昔からご存じでいたとか、あるいはかつて私どもが紹介をして関係を持たせていただいた先生のところへいかれる。これらは当然の話と思っております。

最後に、結果については別途説明がございますけれども、7月2日に日本経済新聞、日経グローバルの中で紹介されたものですが、本学が地域に対する貢献が高いというものです。日本の私立、公立大学を合わせてNo.1になりました。先ほど学長先生もお話しされたところですが、多少は大学の位置づけに貢献の一端を担がせていただけたらと思っておりますが、この後なおさら中身を濃くしなければならないというプレッシャーのほうが強うございます。以上19年度の状況をお話し申し上げました。

○矢島議長

ありがとうございます。

引き続き朝日先生から、19年度の事業と推進状況等のご説明をいただきました。両方を通してでも結構でございます。18年度の前段の部分と19年度を両方通してでも結構でございますが、ご質問、ご意見、その他ございませんでしょうか。19年度につきましては、今お聞きになったとおりでございますけれども、18年度の事業から、新たに18年度までを踏まえてと言いましょか、19年度から取り組んでいる事業もございました。そういったところについてのご興味、ご関心でも結構でございますが、何かございませんか。

○質問

最後のほうで、円グラフでCRDさんへの技術相談件数のお話があったのですが、相談のきっかけといいますか、それは非常に多岐にわたって発表されているので、その中で相談にかかわっているというか、一番貢献しているのは。

○朝日

私の記憶する範囲では、インターネット経由でうちの大学を見つけられたというのが4割ぐらいありました。残りの4割は大学の地域貢献度のニュースや新聞を見たとおっしゃる方がいます。ほかにシーズ集を見たというかたが1割ぐらいありました。インターネットの力はばかにできないというのが率直な感想です。

○質問

展示会をいままでやって、展示会での反響というのは、

○朝日

展示会での直接の反応で共同研究に結びついているのは、残念ながら1件が進行中です。相談件数は1件ではありません。知っているだけで6件ほどございます。展示会に来られて相談される方で直接の企業の方というのはあまりいらっしゃらず、町の発明家に近い方が多いというのは確かです。

○矢島議長

他にございませんでしょうか。

○質問

先ほど共同研究のグラフがありまして、平成14年ぐらいから総数的には変化なくきておりますよね。ただ金額では非常な伸びを示したという報告があったと思うのですが、それは具体的に地域の企業さんが共同研究にかかる金額というのは、我々商売柄大体予測ができるのですけれども、ふえたというのは道外の企業か、あるいは大企業さんとの共同研究がふえたということなののでしょうか。

○朝日

具体的な内容については、私は承知しておりませんので申し訳ありませんが、地域連携のほうからお願いしたいと思います。

○木村

共同研究、受託研究等の事務担当の木村でございます。

文部科学省の考え方等々にも準じて大学でもやっている部分がありまして、4、5年ぐらい前までは、まずは件数を伸ばしましょうということで、件数に力を入れていました。つい最近文部科学省等々では国立大学の1件あたりの平均が200万で、これを500万にしなければ、大企業等々については海外の大学さんとの共同研究ですごく多額の金額が海外に流出している。国内の企業さんとも金額を上げていかなければならないということがあって、できるだけ件数を伸ばすよりも、金額が大きいものの共同研究を、最近見据えてきている。ということで1件あたり年間3,000万などというのも出てくるようになりました。前は1,000万を超える共同研究はあまりなかったのですが、高額なものが出てきているということでございます。

○質問

それは具体的に、企業の地域性や大企業云々ということの変化は特段ないということですか。

○木村

本学はもともと大企業と言いましょうか、道内よりも本州の企業との共同研究が多かったのです。いわゆる先ほど朝日から説明ありましたが、地域貢献度NO.1をとったのですが、いわゆる地場に着眼しましょうということで力を入れたので、小さな金額のものがふえていきました。一方、本学としても力をつけた部分がございますので、大企業ですが、1,000万単位だとどうしても大企業でなければ出せないということもありますので、東京や大阪の企業さんが高額な共同研究ということになってございます。

○朝日

一応、共同研究の件数も多くしなければならぬ、外部資金も多くしなければならぬということで、年度当初全教員が1件以上の共同研究、100万以上の外部資金をとれということで檄を飛ばしているのですけれども、

なかなかふえません。ただ共同研究の件数は別ですね。件数ではなく額が増えたのです。

○岸

できれば日鋼さんとか北電さんとかの企業と提携が包括的に結べればいいと私は思っているのですが、なかなかうまくいかないです。

○矢島議長

ほかにございせんか。

○質問

いろいろなご説明をいただいたのですが、CRD センターとして一番業務量がかかっている仕事はどういうところになるのですか。

○朝日

何でも全力投球しているので、どれということは申し上げられないのですが、どれもただ走っているだけで精一杯です。スタッフが少ないというのが一つあります。それと他大学が出ている展示会に出ないとまずいということで、いかなければなりませんということと、連携していますと必ず出て行かなければならない、地場回りもしなければなりません。少人数で全力投球している状況です。また、いろいろなアンケートがふえているので、今後どこに重点を置いていかなければならないのか選ばなければならぬのかなと。

○岸

大学としても仕組みを変えて、重点化しながらやろうと考えています。現在検討中です。

○矢島議長

我々も一緒に連携させていただいているところから拝見しますと、いろいろな手段を使って研究シーズの発信に相当力を入れておられる。プラス地元企業との交流といったところ。それから朝日先生のご説明にもありましたけれども、連携支援会議というところの出身者のご支援等をいただきながら、大学内の先生の、先ほど岸理事からもご説明があったような文科省系の研究補助金というものを、先生方に取りにいただくための橋渡しの努力、私どももお手伝いしながら、非常に熱心にやっておられて、その結果、採択をいただく研究費や外部資金としていただく件数も伸びているとお聞きしています。そういうところに重点を置かれて動かれているのかなと思います。

○質問

いろいろな研究成果が出ているかと思うのですが、研究成果の発信はどのように考えていらっしゃるのか、その辺をお伺いできればと思います。

○朝日

研究成果の発信は、共同研究での成果は発信しづらいところがありまして、ご存じのとおりだと思いますけれども、先生方の、科学研究レベルでの話は発信しやすいのですが、特に知財の絡みがありますので、その辺をうまくお話いただければということで鈴木先生からできませんか。

○鈴木

研究成果の発信にはいろいろな方法があると思いますが、知財本部にしても CRD にいたしましても、いわゆる社会貢献の窓口であると思っております。実施大学は入り口でありましょうし、CRD は出口になっていると思い

ます。知財の発信の仕方は、私どもが担当しております特許や実用新案、著作権などに限った問題ではなくて、大学の先生が得意とするところの論文、講演会などで、知財を発表していただくのがよろしいかと思っております。その中で特許化すべきものがあれば、特許の申請をしましょうと。特許化したほうが社会との連携がうまくいくものは特許化すればいいですし、論文で連携できるものは論文で連携すればよいと思っております。

○矢島議長

ありがとうございます。

○朝日

共同研究の場合は、企業とですから難しいですね。

○質問

今、矢島さんから少しあったように学外の外部資金などを取りに行くのにコーディネートを担われて、そういうのもふえてきていますよということですよね。先ほどコーディネーターとしての課題等々も検討していくというのが出ておりましたが、それはつまりそういうことなのでしょう。

○朝日

うちのセンターの中でのコーディネーターは実質3人で動いているわけですが、それだけではカバーできない、わからない、あるいはテクノセンターさんにもコーディネーターの先生がおられるのですけれども、こちらでもカバーできないという話を、持ち寄らないとうまくいかない、いろいろな問題を出し合って補完する場として機能していると私は思っております。

○質問

例えば室蘭工大の中で、公募事業で、最近は産学官みたいな組み合わせの提案をしている、学内の先生だけが文科省の駆け引きだけにいくようなスタイルとは変わってきて、経産省の事業やJSTなどもそうだと思うのですが、そういった場合は産学官の方が組んだ形の提案の仕方が必要になってきますね。そういった事業提案をしていくときには、従来の学部の講座の先生方が主体的にコーディネートしているのか、今いったようにこのグループとか、そういう方々がコーディネートした案件が多いのか、今はどのような感じでしょうか。

○朝日

実質、コーディネーターの先導というか、そのパターンのほうが多いと思います。

○矢島議長

我々で、ご相談を受けて、大体的見当で専門はこの先生だという場合が多いですけれども、それはやはり CRD センターさんのほうに一度通してアクセスさせていただく形のほうが多いかと思えます。

○岸

どちらかというと先生たちは、ある程度のネットワークを持っていますけれども、お金をとることに慣れておらず、コーディネーターさんに聞いて指導されて動くというのが多いという気がしています。ですからもう少し外に出て、先生みずから取ろうみたいなことがあればもう少し活性化するかなと思っておりますが、もう少し時間が。

○質問

なぜこのような質問をしたかというのは、先ほどの質問と関連するのですけれども、そういった学内コーディ

ネット機能を CRD センターの中で大きくしていくお考えがあるのかなと思ったものですから質問させていただきました。

○矢島議長

私からお答えするのは立場が違うかもしれませんが、我々と一緒に、ことしからある意味本格的に大学の CRD センターの先生方、コーディネーターの方々と私どもの職員、コーディネーターが一緒になって地域の企業訪問を行っております。そこで大学からのシーズを含めた情報発信もそうですけれども、企業としての取り組み、ニーズといったものも、ことしは相当蓄積されてきているかなと思っております。

○朝日

そういうのがあったときに我々がすぐ対応できるような、ある程度束ねてできる体制にしなければならないとは思っております。どうしても今は個人がコアになっていまして、ワンマンラボで動いております。ですから大きいものを取ろうとするとできないみたいなのところもあり、そこらへんが難しいなと感じています。いずれにしても大きい事業を取って展開したいという気は十分あります。

○矢島議長

今ので石坂さんからございますか。

○石坂

産学官コーディネーターということができましたが、いずれにしましても今お話ししたとおりでございます。確かに大学の社会貢献の窓口的な存在が CRD センターだと位置づけておりますし、ましてや室蘭工業大学という地域性を考えてみると地場に直結した、いわゆる現場といいますか、地場の産業界と直結した活動が必要だろうと考えております。もちろん大企業との大きなビジネス、これは再編できたことも含めて考えなければなりません。先ほど言ったような地場に即した活動は、大学及び室蘭テクノセンターと一緒に活動して、効果をより高めていきたいというイメージを持っております。ただそれにしても今の体制で十分かという決してそうではないし、満足もしておりませんので、現在でも、例えばドーコンさんの力をお借りしながらやっているところでございます。ますますの増員、増強をしていただければ、さらに活動も活発になるのではないかと期待しております。以上です。

○矢島議長

ほかにございませんでしょうか。

○質問(宮地)

CRD センターの役割の中で、皆さんのお話を聞いていると発信、あるものを発信していく中でシーズ集なども発信の一つのツールであるわけですね。また石坂さんが回られて話を聞いてくる中で、出てきたものが地場の企業を中心としたニーズといったものを CRD が持ち込んでくるわけですね。持ち込んできたものを、次はどうするのか。今岸先生がおっしゃったように、それぞれ 1 人ずつになっているような中において、ニーズを大学としてどういう形で先生につないでいけるのか、その辺の所は現実問題として簡単なものではないですよ。CRD はそこをどう考えているのかなと。いろいろなニーズを組んでマッチングがピタッといけば問題はないのですが、意外と若干違っているだけでもマッチングがうまくいかないケースが、現実問題として話を聞いてみるとあるのです。そこを何とかつなげるというところで、話が共同研究などにつながるのだと思うのですが、そこが何ミリか何センチか知りませんが、そこがもう少しいくともっと増えるのではないかと私は期待しています。

○朝日

現実、今のお話しのとおりです。いろいろな話をいただいて、全部にお応えできるかというところとすぐに応えるのは難しいことがたくさんあります。それについては外部にも多少お手伝いいただくということは、当然やらなければならないと思っておりますし、現実にもやっております。できるならば学内で、できるだけ多くの先生にご協力いただきたいと思います。ただ、いただくニーズというのは、室蘭という地域の傾向もありまして、お一人とは言いませんけれども、数人の先生にかぶさるようなニーズが多いのです。我々としてはそこが非常につらいところで、一人の先生に全部お願いするということにはなりませんので、できるだけ拡散したいと思っています。その先生をどうやって口説いていくかが、我々の悩みであります。

○石坂

今の話は永久のテーマかもしれないと思って見えています。確かにマッチングがだれでもできるかというところが非常に難しいところだと思うのです。いわゆる我々コーディネーターの間では目利と称していますが、いかにつながり得るかというのは、お互いの情報をお互いに頭の中に入れ込んで、そしてつないでいく形になるので、そのトレーニングといいますか、それが非常に大切だということがあります。ただ個人のトレーニングだけではできませんので、例えば技術相談シートやニーズ集などの道具を使いながらやっていくというのが現状だと思います。より高度化ということも強く文部省のほうから要求されておりますので、その辺もやっていかなければならないと思います。

○質問(赤繁)

話は戻りまして、私から発信という話をしたのですが、例えばうちの局でやっていた産学官金連携の中で、多分テクノさんにつないでこちらに来たと思うのですが、苫小牧のタナカコンサルタントですか、そちらの例はそもそも中小企業公庫さんから話がきてつないだわけですが、それが最終的に経済局の新連携という制度につながって、例えば融資につながったとか、そういう事例をどんどん見せることによってこうやればうまくいくと、逆に先生たちもそういうのができるとか、そういう形になるので、もっと見せる、事例をどんどん見せていくことが大事なかなという気がします。

○矢島議長

予定の時間も迫ってきていますが、ほかにございませんでしょうか。

○質問(工藤)

もう一ついいですか。

社会連携という切り口が、一番重要なところなのですが、では社会連携って何なのか、CRD から見た社会連携というのは何かという形において、私が感じているのはいろいろな共同研究をすることによって、地場、北海道なのか胆振なのかを別にしても、そこが活性化していくということが、大学ができる社会連携で、結果というのは活性化。こういう工業大学には活性化というのは、いろいろなシーズを、別にベンチャー的な意味で企業化する必要はないと僕は思うのです。今ある既存の会社に対して、ちょっとした研究の成果をやることによって、それを使ってさらに品質向上することによって商売がふえて、雇用が一人でも二人でもふえていくのが見えてくれば、それが社会貢献の秘けつなんじゃないかなと思うのです。そういう意味で今の段階は、そこまでいっていない中でいろいろなものを出しています。その先が早く、5 年ぐらいの感じを持ちながら、地域ないし北海道の雇用がふえていくことができるというのが、CRD の真の意味のゴールだと思うので、そういうところを、私も一員ですから、そういう方向でやっているというのをご理解いただきたいと思う次第でございます。

○矢島議長

先ほど赤繁さんのほうからお話しがありましたけれども、まさにそういう形でモデル的に見せていくというか、大学と共同研究の結果、こういう成果があったというものを、私どもの反省点ではあると思いますので、これからはそういうところにも力を入れていかなければいけないかなと思っております。例えていうと先ほどのものの

ほかに、トヨタ北海道にすでに納めていますがアルミの再製品、再生のインゴットを室蘭工大の先生との共同研究で成果を出しています。これを地元企業が、厳しいトヨタさんの目をクリアして入れている成果もあるわけです。そういうものをもっとわかりやすく引っ張り出していかねばならないと思っています。

ほかにございませんでしょうか。

時間の関係もございますので、その他に進みたいと思います。本日予定の討論テーマは以上で終了させていただきますけれども、せっかくの機会でございますのでCRDセンターに関すること、あるいは産学連携に関すること、また大学全般にわたっても結構でございますが、何かご質問、ご意見等がございましたらお願いしたいと思います。いかがでございましょうか。

無いようでございますので、多少予定の時間まで若干ありますけれども、これで終了させていただきたいと思います。本日の議事録、取りまとめにつきましてはご一任願いたいと思います。

本日はまことにありがとうございました。

○司会

矢島会長、会員の皆様方、どうもありがとうございました。

閉会にあたりまして室蘭工業大学研究社会連携担当理事岸徳光よりお礼の言葉がございます。

○岸理事

本日は、師走のお忙しい中、平成19年度室蘭工業大学CRDセンター事業推進検討会にご出席いただきましてまことにありがとうございます。

2時間という短い時間でしたが、委員の方々からいただいた貴重な意見、心より御礼申し上げます。きょうのキーワードはコーディネート力の強化、大学の研究部分の強化、それから成果の発信力の強化の三つかなと思います。すぐさまCRDセンターの活動及び運営結果に反映させていただきまして、来年も地域貢献度ランキング1位は無理かもしれませんが、1位になる意気込みで地域の活性化に貢献し、かつ大学も活性化して地域になくはない大学、地域に愛される大学になれるように教職員一同頑張りたいと思いますので、今後ともよろしくご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。簡単ですが閉会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

○司会

以上をもちましてCRDセンター事業推進検討会を終了させていただきます。皆様どうもありがとうございました。